



私たちの水道の源流



えんてい 本庄水源地堰堤水道施設

▲大正7(1918)年、呉鎮守府の軍用水道の水源地として完成。長さ97m、高さ25mを誇る。平成11(1999)年に、丸井戸、第一量水井、階段とともに稼働中の水道施設として日本初の国重要文化財に指定。

明治期以降、海軍の発展により安定的な水量の確保を目指す呉鎮守府は、焼山・本庄両村(現在の昭和地区)に貯水池の築造を計画し、大正元(一九一二年)から約5年半をかけて軍用水道工事を行いました。

この工事には多くの人が携わり、また多くの材料が使われました。そのうち石材や粘土は地元で調達され、セメントや鉄管などは当時呉の商港だった吉浦から、急勾配の山道を馬車などを使って運ぶといった一大事業でした。

そして大正7(一九一八年)、当時としては東洋一の規模を誇る重力式コンクリート造堰堤を中心とした軍用水道が完成し、海軍施設への安定的な水の供給が可能になりました。

また同年4月、海軍から水源地の水を一部分けてもらうことで、市民向けの給水も始まりました。これにより、水売りの人



▶「丸井戸」二河川から直接取水した水を一時的に溜めて沈砂し、第一量水井に導く。「第一量水井」丸井戸および取水塔から集水後に浄水場へ水を送り出す。「階段」堰堤北側にある長さ約36mの石造りの階段。

から買ういなり水や、井戸水などに頼っていた当時の市民生活は大きく変わるようになったのです。

重厚で美しい石造りの堰堤に代表される本庄水源地の誕生は、呉市民の水道の源流であり、今も私たちの生活を支えているのです。



▶堰堤の取水塔上屋内にあるバルブ(一般公開はしていません)今も残るKN.W.W.(Kure Navy Water Works=呉海軍水道)の刻印が歴史を感じさせます。

●本庄水源地の一般開放

現在稼働中の施設のため普段は見学できないけど、桜の開花時期には一般開放されるよ。重要文化財を間近で見てクレ!

【一般開放】3/18(土)~4/9(日) 9:00~16:30

詳しくは23頁に記載

所在地 呉市焼山北3丁目
アクセス 本庄バス停下車 徒歩約3分

問 経営企画課 ☎ 26-1604



※いなり水
現在の二河テニス場付近に、かつて稲荷神社があり、そこから湧き出していた名水

